

理解推進事業

多くのボランティアに支えられたスポーツ大会
次回に向けてさらなる整備拡充も課題

3月7日に行なわれた第19回多摩市障がい者ふれあいスポーツ大会には競技指導者や看護師などの専門スタッフはじめ約60人のボランティアも参加。受付や駐車場整理、参加者の介添えや競技補助などにあたった。市を通じて各地区の中学校に呼びかけ、大学については産官学の連携組織であるネットワーク多摩を窓口にして募集。集まったボランティアは催しの目的や障がいを理解したうえで当日に臨んだ。

用具の設置や整列の補助、来場者の誘導など、ボランティア一人一人がそれぞれの役割を担い大会をサポート。競技中の声援も大事な仕事のひとつだ



資源化センター事業

3月は90トン処理
年末年始は100トン超え

3月の作業実績は13日間でおよそ65時間。総選別量は前月と比べ約5%増の90.3トンとなった。

2014年度の総処理量は約128トンでひと月あたり94トン。12月と1月は特に多く、両月とも100トンを超えた。また、総稼働時間は775時間だった。



これからの季節は暑さの戦いでもある
①気温の上昇とともに飲み物のびんも増える



加盟団体からのお知らせ

- アートひまわり 南野3-15-1 5階 ☎373-8455
- NPO 法人あしたや共働企画 諏訪5-6-3-101 ☎372-3690
- NPO 法人暉望(色えんぴつの家・グループ TOMO) 永山3-9 ☎372-3382
- NPO 法人くぬぎ 永山3-9 ☎375-2583
- NPO 法人どんぐりパン 諏訪5-6-3-105 ☎371-9236

- サンクラブ多摩 南野3-15-1 5階 ☎356-0308
- 多摩市視覚障害者福祉協会 聖ヶ丘1-28-26-103 ☎372-8051
- NPO 法人多摩市身体障害者福祉協会 南野3-15-1 3階 ☎338-7009
- 多摩市手をつなぐ親の会 聖ヶ丘1-19-3-304 ☎374-8740
- 多摩市聴覚障害者協会 聖ヶ丘1-19-5-201 FAX 372-0939

移動支援事業

3月も遊園地や映画館など近場から遠出まで
幅広い利用あり

東京ドーム約7分の敷地に競技場や厩舎などさまざまな乗馬関連施設が設置された馬事公苑。小田急線の経堂駅が東急田園都市線の桜新町駅からいずれも徒歩15分



3月は、世田谷区の馬事公苑や神田明神、浅草花やしきなど遠出時の同行のほか映画鑑賞やカラオケといった近隣施設利用時の付添いなどで計148件の利用があった。

2014年度利用者のうち80%が仕事をしており、主に休日の外出時に使っている。一方、児童・学生の利用は春・夏休みが多かった。

のーまライフライーより

STOP!精神科病棟転換型居住系施設

DVD「やれば、できるさ!」完成

1頁でも取上げた精神科病棟の居住化問題を考えるうえでの一助となるDVD「やれば、できるさ!」が完成。日本障害者協議会のホームページ等を通じ頒布されている。のーまでも視聴可能。

DVDには、昨年6月に日比谷野外音楽堂で開催された緊急集会の記録映像をベースに当事者の

発言や主要団体の主張のほか、精神保健福祉の『聖地』イタリア・トリエステの取材記録などを収録。問題の本質をさまざまなデータを交え解説している。



NPO 法人 暉望(きぼう)

身体・知的障がい者の通所施設・色えんぴつの家と身体障がい者の支援施設・グループ TOMO が平成24年、一緒になり NPO 法人として新たにスタートした。色えんぴつの家はこの4月、東永山複合施設に移り多摩桜の丘学園から2名の卒業生を迎えた。



永山商店街の『焼菓子TOMO』では焼きチョコ(写真)やマドレーヌなどを販売中

多摩市障害者福祉協会



つながりを力に、人と人を結ぶ
月刊多障協通信 ルリエ

relier

目次

事業報告

精神科病棟の居住化問題を考える1

支援センターの一ま 2

障がい者就労支援センター 3

理解推進事業 4

移動支援事業 4

資源化センター事業 4

加盟団体からのお知らせ 4

加盟団体紹介 4

DVD「やれば、できるさ!」完成 4

連載

NEWS 1

今月の花 1

プログラムカレンダー 2

今月のひと口解説 3

現場からの声 3

精神科病棟の居住化問題を考える

昨年、大きな動きがあった精神科病棟転換型居住系施設の問題は現在、長期入院患者の退院を促すため病棟をグループホーム等の居住施設に転換することを、国が条件付きで認める方向で進んでいる。だが当事者や支援者からは「病棟転換は、病院経営のために病院が患者を囲い込むので、患者のニーズではない」といった厳しい声が相次いでいる。多摩市を含む南多摩地域には精神科病床が都全体の約3割、約740あり、その動向が注目されている。精神保健医療では長期入院者の地域移行・地域定着支援の円滑な推進体制づくりがいま大きな課題の一つとなっている。今回の病棟転換は、日本が昨年1月に批准した障害者権利条約の趣旨にも反すると言われ、入院患者の人権確保の視点からも病院敷地外の地域での基盤整備が求められている。

今月の花
小手毬(こでまり)



近所の遊歩道を歩いていると庭先や垣根などでよく見かける。枝に白く小さな花が丸く集まり、手まりのように咲く愛らしい花。別名、鈴懸け(スズカケ)ともいう。優美になった枝ぶりは雪柳(ユキヤナギ)に似ているが、柔らかな印象を与え生け花としても利用される。花言葉は「優しい心」「伸びゆく姿」「友情」。ちなみに春を代表するこでまりはバラ科、大手毬はスイカズラ科で夏の季語。

NEWS~聴覚障がい者の祭典「デフリンピック」の開催

第18回冬季デフリンピック競技大会が3月24日から4月7日までロシアで開催され、日本からは22人の選手が参加した。デフリンピックは4年に一度、世界規模で行なわれる聴覚障がい者のための夏季・冬季の総合スポーツ競技大会で、国際ろう者スポーツ委員会が運営している。競技開始の音や審判の声などの合図を視覚的に工夫して行なうほかは、競技のルールは五輪と同じ。だが、聴覚障がい者の祭典に対する知名度はまだ低い。2020年東京五輪・パラリンピックの開催に向けて障がい者スポーツが注目され、デフリンピックへの理解もより深まることが期待される。

※の一まの『HOT ほっと』は2014年9月号、本部で発行しておりました『多障協だより』は2014年1月発行の冬号をもって最終号とさせていただきます、昨年9月より2つを統合し『月刊relier』としてリニューアル発行させていただくことになりました。長い間ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします

※『relier』は「つながり」や「結びつき」を表わすフランス語。人と人、地域と地域をつなげることで真の共生をめざしたいという意味を含め、リニューアルした広報誌にこの名前をつけました

利用者ミーティング

5月2日は、7月4日(土)に予定している。今年度1回目外出プログラムの行先を募集します。興味のある方はご参加を。4月に話し合った内容は入口に掲示中。

場所:の一まオープンスペース
参加費:50円(お茶・お菓子代)



◎2014年度第1回は府中郷土の杜で古民家等見学

◎第2回は梅や椿が満開の深大寺・神代植物公園へ

投稿広場

0(オー)さん投稿
◎『芝田川の桜』
◎『マスコットと響』

3月相談件数

相談人数は前月比8%増の172名。関係機関からの相談や問い合わせが前月比6%増の37%を占めた。件数は前年同月比4割増の357件、制度や対人関係の相談が2倍になった。

2014年度年間報告

プログラム総参加人数は、1,192名。前年度と共通のプログラムの変動は以下の通り。回数は3回減ったが参加者は平均31%増加した。

昨年度と共通のプログラム			
	人数	回数	前年比
コーラス	237	11(-1)	137%
映画会	177	11(+1)	148%
イブニングタイム	498	43(-4)	115%
利用者ミーティング	82	10(+1)	126%
プログラム全体	1192	96(-20)	112%

※人数は延べ人数で算出

お知らせ

契約更新について

今年度も、引き続き利用を考慮して、更新がお済みでない方は、早めに手続きをお願いします。

イブニングタイムボランティア募集

一緒に食事やゲームの相手をしてくれる方を募集しています。詳細はの一ま職員、または多摩協ホームページをご覧ください。

今月の映画は『魔女の宅急便』

宮崎駿によってアニメ化もされた、角野栄子の名作児童文学を原作にしたファンタジードラマ。少女キキは、魔女修行をするために黒猫ジジと旅に出た。海辺の町『コロコ』に着いた彼女は…。



実績報告

フルタイム就労が大幅増

第4四半期(1月~3月)の実績は職業相談と電話相談が突出して増加した(前年度同期比較)。いずれも前年度比で職業相談は167%、電話相談が270%となった。対して企業への訪問が前年度比70%。この数値から読み取れるのは企業就労者の安定した仕事ぶりや職員の効率性向上である。訪問ではなく、電話という手段でのフォローが可能になった利用者や企業が、企業内での問題解決能力が上がったと考えられる。訪問件数が減ったことで職員が対応できる面談の量も増え効率性も向上したと言える。

また、2014年度の相談件数は4431件で、前年度とほぼ同数であった。しかし新規登録者数は73人と前年度47人から26人増。中でも精神障がい者が種別比でトップとなり特に増えている。新規就職者数は33人で前年度とほぼ同数だが、月給制の30時間以上雇用の方が7人から17人と大幅増となった。

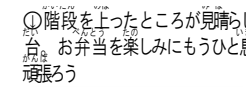
今月のひと口解説

精神障がい者の雇用義務化に向けて

2015年2月時点の国内就業者数は約6000万人で前年同月比約39万人増加。そのうち雇用障がい者数は約43万人で対前年5.4%増で22万人増加。中でも1998年にはゼロだった精神障がい者の就職者が2013年には48000人に増加している。この背景には2018年の精神障がい者の雇用義務化があり企業側が積極的に採用するようになったことがある。今後も精神障がい者の雇用に対する機運は高まっていくことが予想されるが就職後の定着率は49%であり、急いで雇用率を上げることより就労後のフォローも含め丁寧に進めていくことが重要である。

初参加組も加わって40分の春散歩

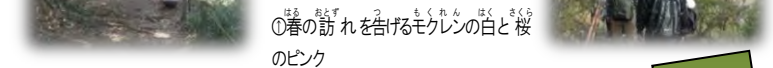
天気にも恵まれればかばか陽気となった3月28日。4人の職員を加えた20人で京王百草園を散策した。現地までは約40分の道のりを歩いた。一宮の交差点から入った坂道には牛舎があり、初めて見る乳牛にみんな興奮気味。園を前にした疲れも吹飛び、予定通り12時に正門に到着した。一番高い見晴らし台まで10分。他の来園者に混じり、足元に気をつけながら上っていく。園内は家族連れを中心に、季節の花々を楽しむ姿が多く見られた。昼食後は坂道を上ったり下ったり。ルールを守り、思い思いの時間を楽しんだ。またこの日は、2015年度からプログラムに参加予定の4人も体験参加。自己紹介では少し緊張が見られたもののすぐに打解け、春の一日を満喫した。



◎階段を上ったところが見晴らし台。お弁当を楽しましもうひと息頑張ろう



◎石段の先に見える正門をくぐり駅までの道を下っていく。お弁当を食べリフレッシュも足りも軽い



◎春の訪れを告げるモクレンの白と桜のピンク

職場ルポ編 vol.1 NEC ビジネスプロセッシング株式会社

現場からの声

新宿駅から徒歩6分。雨天でも傘なしで行ける新宿野村ビル7階にオフィスはある。2013年、NECグループとしては初の精神障がい者を雇用した企業である。雇用当時の様子を雇用担当者の南氏に伺った。「精神障がい者の雇用は、まったくノウハウがなく、本人と体調等を相談しながら少しずつ業務に慣れていただきました。"朝夕の業務報告と体調報告を徹底する" "ストレス原因である電話機を席からなくす" "始業時間を10時にする"等の雇用管理上の工夫をしました。特に、本人の希望により精神障がい者であることを最初からオープンにしたことで、職場内みんなが自然なケアができるようになっていきます」。雇用のノウハウを積み上げ、就業は安定したものになっている。「現在は様々な総務業務を担当しています。その中でも年4回の社内報の発行では、取材・記事作成・編集・イラスト作成などほぼ1人で担当しています。社内報は、本人の大きな自信につながったのと同時に、会社にとっても社内の情報を全社員に伝えられる大切な存在となりました。現在、大きな会社の戦力として生き生きと就業していただいております」。社会における自分の役に気付いた時、そこに「障害」は存在しないのではないのだろうか。



2013年11月に入社されたYさんによる「仕事の中の私」

NEC ビジネスプロセッシング株式会社
本社:東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル
代表者:代表取締役社長 鈴木 良隆
設立:2002年6月
事業内容:コンタクトセンター運営・コンサルティングから業務BPOまでの一貫した総合コンタクトサービスの提供
従業員数:社員 約450名 (平成26年3月末現在)



就労支援センター 利用について

就労したい方、または就労継続を希望する多摩市在住のご家族の方からの相談を受付けています。相談は予約制です。☎042-311-2324(受付は祝日除く月~金 9:30~17:00) 住所:多摩市関戸4-19-5 市立健康センター4F

支援センターの一ま 利用について

普段の暮らしに関すること、障がいや病気のこと、福祉サービスのこと、困っていることがあればご相談ください。☎042-311-2660 ☎042-311-2300(受付は祝日除く火~土 10:00~17:00) 住所:多摩市関戸4-19-5 市立健康センター4F